

知の市場
—実績と計画—
(2014 年度実績と 2016 年度計画版)

1. 理念と運営

「知の市場(FMW : Free Market of・by・for Wisdom)」は、「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して、人々が自己研鑽と自己実現のために集う場である。そして理念と基本方針を共有しつつ協働する受講者、講師、友の会、開講機関、連携機関、連携学会、協力者・協力機関、有志学生実行委員会、知の市場事務局などが自立的で解放的な協力関係を形成しながら、それぞれの立場を越えて自律的な判断により自ら活動する場 (Voluntary Open Network Multiversity) である。

「知の市場」は、大きな時代の潮流を先導し、社会人教育と学生や院生に対する学校教育とを切れ目なく連結し、さらにプロ人材の育成と高度な教養教育を相互に補完しあうものとして接合することを目指している。加えて、社会の全ての人々や組織が何らかの形で教育に関わり全員参加の中で各々の役割を果たして教育を支え、そして教育の世界と現実の世界が互いに重なり合いながら高めあっていく、そうした真の教育立国を求めている。それによって津々浦々で諸々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ社会の構築に向かって、道を切り開いていくことが知の市場の課題である。

「知の市場」は、総合的な学習機会の提供、実践的な学習機会の提供、十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価という 4 つの教育の基本方針の下で活動する。そして開講機関が主催し連携機関の協力を得て知の市場とともに開講する共催講座と、共催講座での経験などを活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって開講機関が「知の市場」の理念を共有しながら独自に開講する関連講座で構成されている。

「知の市場」は、それぞれの機関や個人の自発的な参画と自主的な活動を基本に据えた理念の下、運営の基本方針、諸規定、運営体制などを公開している。そして受講修了証などの諸様式・マニュアルや「知の市場」のロゴマークなどの統一と標準化を進め、共通受講システムを共有しながら参画機関のホームページを相互にリンクすることなどにより協働の基盤を整備し、相互扶助と相互検証を通して連携の強化と教育水準の維持向上を図っている。

「知の市場」は、理念を構築し人の輪を形成し始めた黎明期（～2003 年度）を経て、化学生物総合管理の再教育講座としてお茶の水女子大学を拠点に第 I 期（2004—2008 年度）の活動を開始し、開講機関や連携機関などとの協力関係を拡充しつつ講師や受講者との人の輪を拡大して全国から大きな反響を得た。そして政府や大学からの資金提供などを求めず自主的かつ自発的な教育活動であることを鮮明に掲げた第 II 期（2009—2012 年度）には、視野を拡大しながら全国に開講拠点を拡大しつつ自主的な活動として知の市場を新展開した。これらの実績を踏まえながら、第 III 期（2013—2014 年度）は活動をさらに進化させることによって自立的かつ自律的な活動としての知の市場を確立した。

2. 2016年度開講計画

第Ⅰ期、第Ⅱ期に比べて第Ⅲ期の拠点数は増加しており、知の市場の全国展開と多様化が進展している。第Ⅰ期～第Ⅲ期の間には確立した自立的にして自律的な活動の基盤を活かして、2016年度は共催講座を関連講座に順次移行させるなど取り組みを進化させる。2016年度は共催講座と関連講座を加えた全体で452名の講師陣の参画により全国26拠点で57科目を開講する。

表1 開講状況の推移（拠点・科目・講師）

年度		第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	2016
共催講座	拠点	2(1)	15(4)	16(5)	8(3)
	開講科目	44	44	34	16
	講師	346	401	323	128
関連講座	拠点	—	14(5)	39(10)	21(6)
	開講科目	—	41	45	42
	講師	—	251	329	324
合計	拠点	2(1)	29(10)	40(15)	27(9)
	開講科目	44	85	80	58
	講師	346	625	652	452

注1：第Ⅰ期の値は2004～2008年度の5年間の平均値、第Ⅱ期の値は2009～2012年度の4年間の平均値、第Ⅲ期の値は2013～2014年度の2年間の平均値を示す。

注2：括弧内は東京以外の拠点数で内数。

(1) 開講機関と連携機関

第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は順調に増加している。これまでの経験を活かして独立する機関が増加するのに伴い2016年度の開講機関と連携機関の合計は38機関である。

開講機関と連携機関の内訳は、第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期に対して消費者団体・非営利団体他や市民の割合が増加し、開講機関と連携機関の多様化が順調に進んでいる。

表2 開講状況の推移（開講機関・連携機関）

年度		第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	2016
開講機関・連携機関		26	41	57	37
	開講機関	2	30	39	26
	連携機関	24	38	44	34

注1：第Ⅰ期の値は2004～2008年度の5年間の平均値、第Ⅱ期の値は2009～2012年度の4年間の平均値、第Ⅲ期の値は2013～2015年度の3年間の平均値を示す。

注2：開講・連携機関の値は、開講機関と連携機関の値の合計を示すが、両方の役割を担っている機関を1つの機関として計上するため、それぞれの値の単純合計とは合致しない。

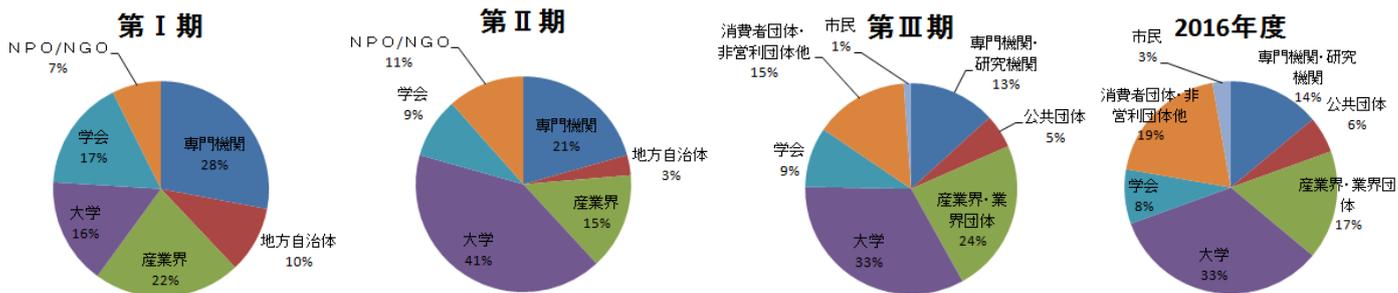


図1 開講機関と連携機関の内訳（第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2016年度）

1) 開講機関

2016年度の開講機関は共催講座が9機関、関連講座が23機関で、共催講座と関連講座の両方で科目を開講する機関の重複を除いた合計は26機関である。

開講機関の内訳は、第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して現場基点の強化の流れにより産業界・業界団体の割合が大幅に増加した第Ⅲ期と同様の傾向が見られる。

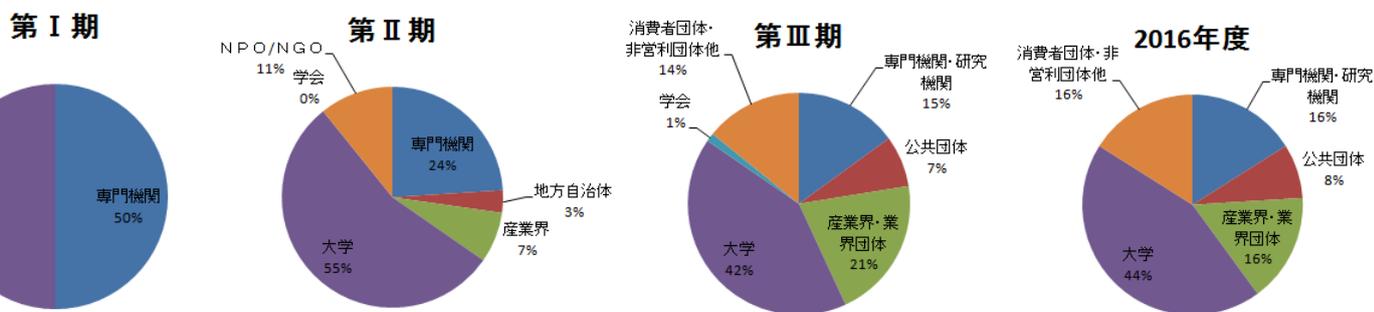


図2 開講機関の内訳（第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2016年度）

2) 連携機関

2016年度の連携機関は共催講座が11機関、関連講座が26機関で共催講座と関連講座の両方で科目を開講する機関の重複を除いた合計は34機関である。

連携機関の内訳は、第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して分野の多様性が一層進んだ第Ⅲ期と同様の傾向が見られる。

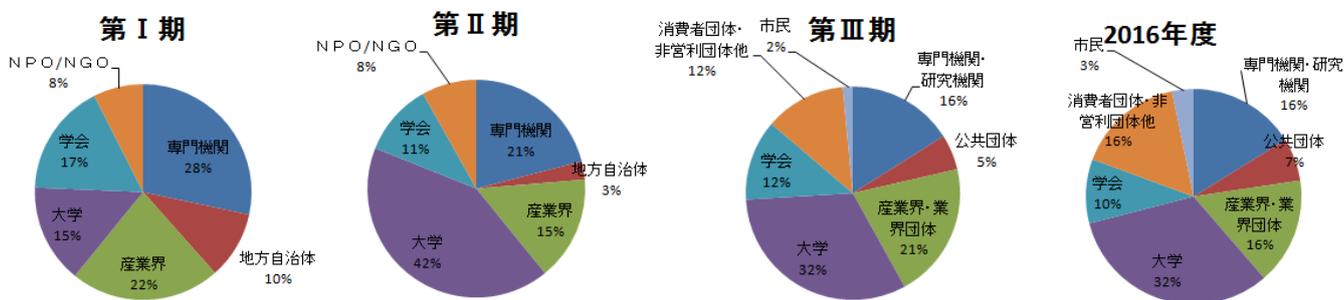


図3 連携機関の内訳（第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2016年度）

(2) 講師

第Ⅰ期に比べて第Ⅱ期は2.5倍に増加したが、第Ⅲ期はさらに増加して2013年度には769名に達した。2014年度からは1科目を多数の講師が担当するオムニバス形式の科目が減少

して1科目をひとりの講師が担当する科目が大幅に増加したため講師の数は減少し、第Ⅲ期の平均は第Ⅱ期と同様な水準となった。2016年度は講師陣として様々な実務経験を豊富に有する専門家452名が参画する。

講師の所属の内訳は、第Ⅰ期に比べて第Ⅱ期では専門機関・研究機関や大学・学協会が増加し、第Ⅲ期では現場基点の流れの強化により第Ⅱ期に減少していた産業界・業界団体も増加しており、実社会の経験者が大勢を占めた。2016年度は消費者団体・市民団体の割合が増加する。

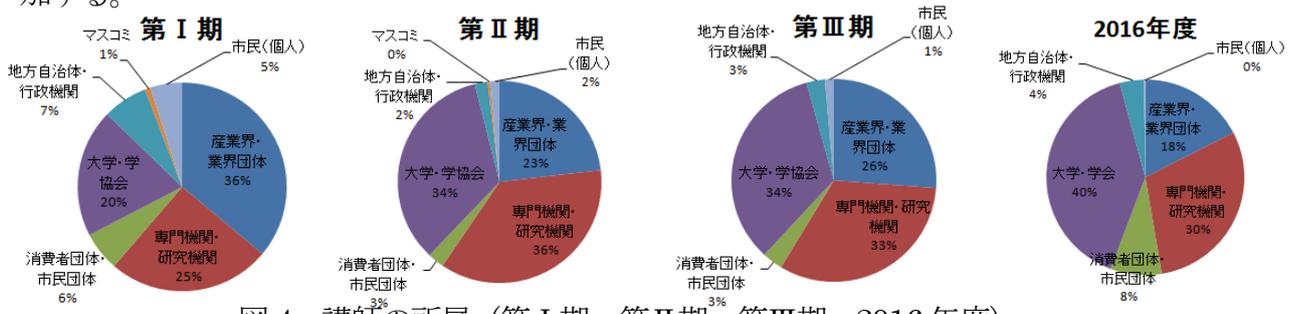


図4 講師の所属 (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2016年度)

(3) 開講科目

共催講座と関連講座の科目数の合計は第Ⅰ期に対して第Ⅱ期にほぼ2倍に増加した後、第Ⅲ期は第Ⅱ期とほぼ同様な水準である。2013年度、2014年度はこの水準を維持していたが、これまでの経験を活かして独立する機関が増加するのに伴い2016年度は57科目に減少する。

2015年度に引き続き科目を分野別に分類して位置付けるとともに水準別に分類して位置付ける。

2010年度までが生物総合経営、コミュニケーション、総合(医療・保健、労働、食・農、鉱工業製品・医薬品、環境)、社会変革と技術革新の5つの大分類で構成していたのに対して、2011年度に地域の1分野を、2012年度に国際、教育・人材育成、芸術・スポーツの3分野を追加して9つの大分類とした。第Ⅰ期から第Ⅱ期に向かって多様化が進んできたが、2016年度は第Ⅲ期と同様に開講する領域が多様化し均等化している。

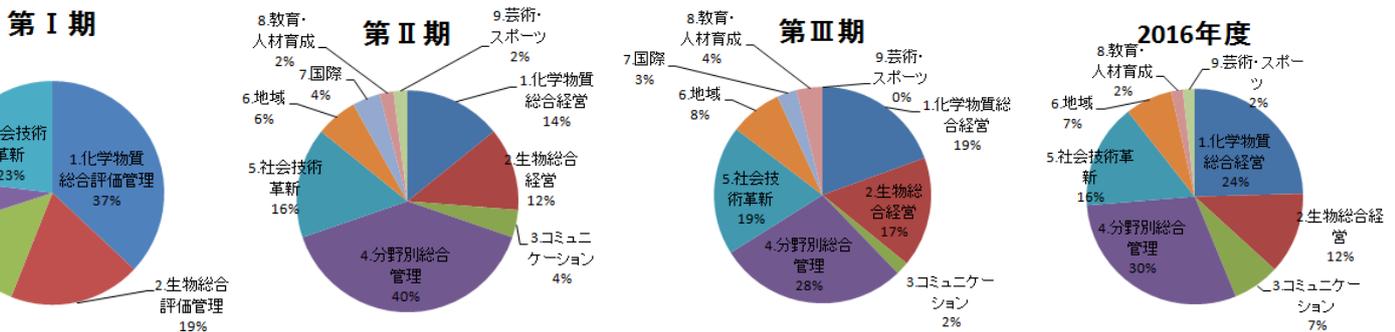


図5 開講科目の大分類 (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2016年度)

また、基礎、中級、上級の3つの水準に科目を分類して比較すると、第Ⅰ期から第Ⅱ期に移る際に名古屋市立大学の医療に関する上級科目の開講などにより基礎が減少して上級が増加したが、第Ⅱ期から第Ⅲ期に移るにあたっては基礎、中級の割合が増加し、2016年度は基礎が増加し中級に近づいている。

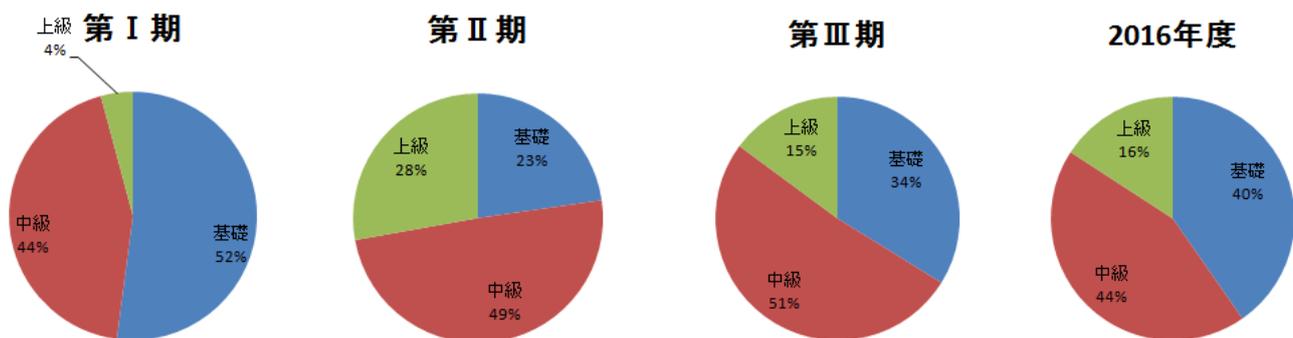


図6 開講科目の水準 (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2016年度)

関連講座は第Ⅰ期には存在せず第Ⅱ期から開講した。教養編、専門編、研修編、大学・大学院編の4つに分類して比較すると、第Ⅱ期に比べて第Ⅲ期は大学・大学院編が減少する一方で、教養編の割合が大幅に増加して多様化が進んだ。2016年度は共催講座から関連講座への科目の移行に伴いさらに教養編の割合が増加する。

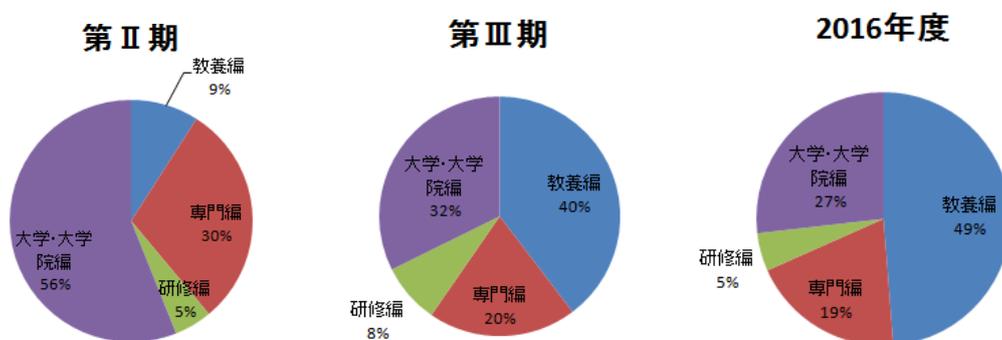


図7 開講科目 (関連講座) の分類 (第Ⅱ期、第Ⅲ期、2016年度)

(3) 友の会と協力者・協力機関

第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期と友の会会員、協力機関ともに増加し、知の市場に係る情報を共有しつつ講座の受講、開講場所の提供、広報の実施などへの自主的かつ自立的な参画と支援・協力が拡大している。

表3 開講状況の推移 (友の会・協力機関)

	第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	2015
友の会会員	2857	3333	4874	4936
協力機関	—	60	82	80

注1: 第Ⅰ期の値は2004～2008年度の5年間の各年度末の数字の平均値を示す。第Ⅱ期の値は2009～2012年度の4年間の各年度末の数字の平均値を示す。第Ⅲ期の値は2013～2014年度の2年間の各年度末の数字の平均値を示す。

注2: 2015年度の値は2015年12月3日現在の数字を示す。

3. 2014 年度受講実績

(1) 受講状況

第Ⅰ期の受講者に比べて第Ⅱ期は3倍に増加したが、第Ⅱ期の後半は東日本大震災や福島原子力発電所の事故の影響により減少した。第Ⅲ期の受講者は第Ⅱ期の平均と比べて減少したが、東日本大震災や福島原子力発電所の事故の後の第Ⅱ期後半とは同水準であり、第Ⅰ期に対しては2倍強増加している。また、修了率は72.9%で第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較して上昇している。

表4 受講状況の推移

			年度あたり平均			2014 年度	合計
			第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期		
年度あたり平均	共催講座	科目数	44	44	40	39	475
		応募者	1203(27)	1415(32)	964(24)	841(22)	13604(29)
		受講者	1191(27)	1370(31)	957(24)	836(21)	13353(28)
		修了者	661(15)	723(16)	443(11)	396(10)	7101(15)
		修了率	55.5%	52.8%	46.3%	47.3%	53.2%
	関連講座	科目数	—	41	55	71	274
		応募者	—	2047(50)	1966(36)	2277(32)	12121(44)
		受講者	—	2032(50)	1916(35)	2210(31)	11959(44)
		修了者	—	1398(34)	1650(30)	2053(29)	8892(19)
		修了率	—	68.8%	86.1%	92.9%	74.4%
	共催+関連	科目数	44	85	95	110	749
		応募者	1203(27)	3462(39)	2930(31)	3118(28)	25725(34)
		受講者	1191(27)	3407(38)	2873(30)	3046(28)	25312(34)
		修了者	661(15)	2121(25)	2093(22)	2449(22)	15993(21)
		修了率	55.5%	62.3%	72.9%	80.4%	63.2%
合計	科目数	221	339	189	110	749	
	応募者	6017(27)	13848(41)	5859(31)	3118(28)	25725(34)	
	受講者	5957(27)	13627(40)	5746(30)	3046(28)	25312(34)	
	修了者	3307(15)	8483(25)	4186(22)	2449(22)	15993(21)	
	修了率	55.5%	62.3%	72.9%	80.4%	63.2%	

注1: 第Ⅰ期の値は「化学・生物総合管理の再教育講座」として開講した2004～2008年度の5年間の
 平均値、第Ⅱ期の値は2009～2012年度の4年間の平均値、第Ⅲ期の値は2013～2014年
 度の2年間の平均値を示す。

注2: 括弧内は科目当りの人数。

(2) 応募者属性

応募者は、現役世代が8割以上を占め男性が女性の2倍に及んでいる。全国展開の進展とともに応募者は地域的に拡大しつつある。また第一次・二次産業に所属する応募者が過半を

占めるものの、公務員、研究者、教員、学生・院生なども多く職業は多様である。毎年新規の応募者が過半を占め、上司や教育部門の指示で応募する者も多く増加傾向にある。

1) 年齢別分布

共催講座の年齢構成は、第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期の現役世代の割合は約8割とほぼ同じであり、全体的に傾向は維持されている。共催講座と関連講座の合計では第Ⅱ期では大学・大学院編の学生・院生の受講に伴い20代の割合が半数を占めていたが、関連講座の科目の増加に伴い年代が多様化している。

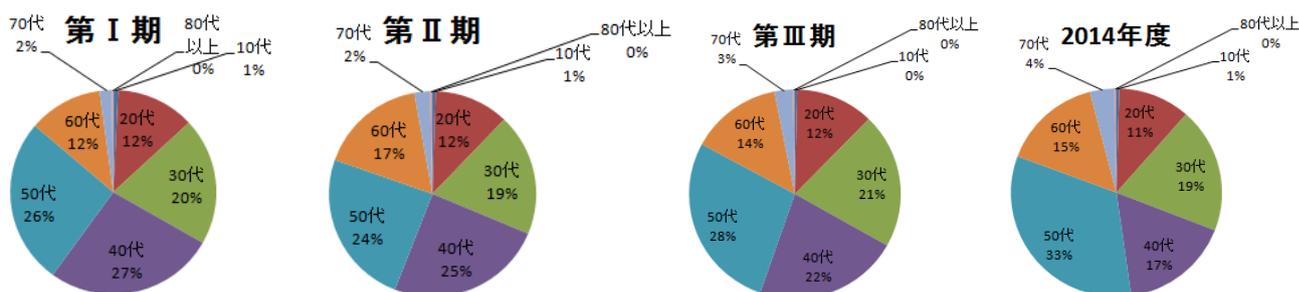


図 8-1 年齢別応募者 (共催講座) (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2014年度)

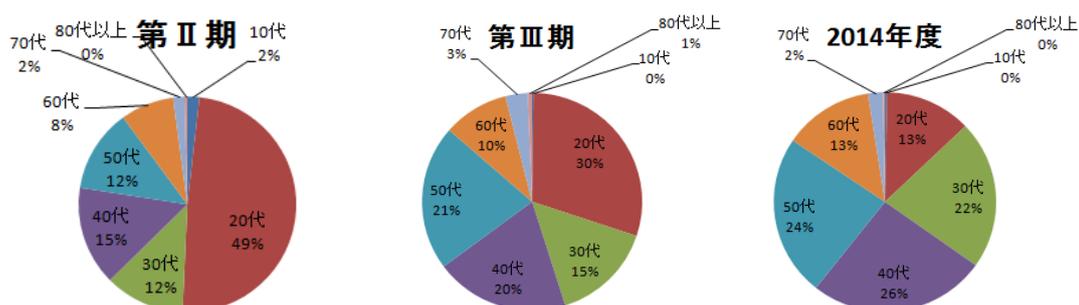


図 8-2 年齢別応募者 (共催・関連講座) (第Ⅱ期、第Ⅲ期、2014年度)

2) 地域別分布

第Ⅲ期の共催講座の応募者の居住地は、関東と東京が大宗を占めていることには変わりがないが、第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較して開講拠点の全国展開により次第に東京と関東の割合が減少する一方で、近畿圏の割合が増加するなど全国展開が進んでいる。共催講座と関連講座の合計では、東京の割合が減少する一方で、近畿圏と九州圏の割合が増加している。

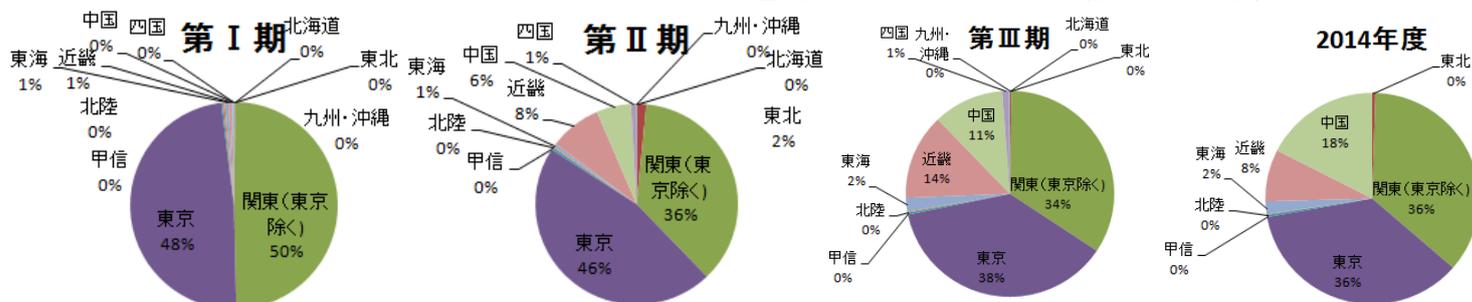


図 9-1 地域ブロック別応募者 (共催講座) (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2014年度)

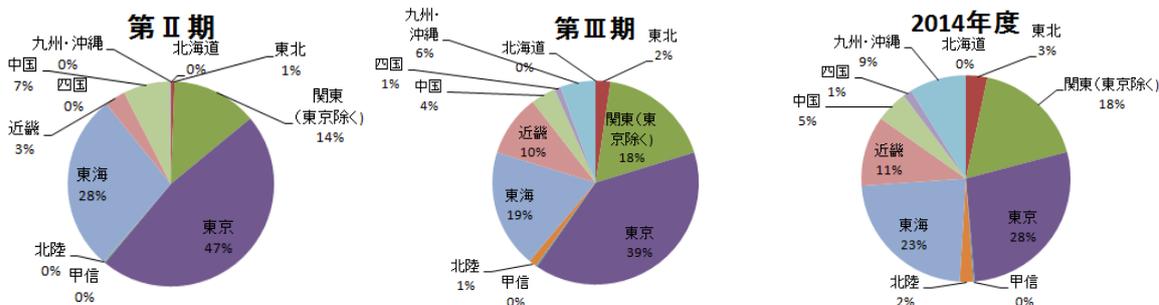


図9-2 地域ブロック別応募者（共催・関連講座）（第II期、第III期、2014年度）

3) 職業別分布

第III期の共催講座の職業別応募者は、二次産業と三次産業の合計で70%近くを占め第I期、第II期の傾向を維持している。残りの30%程度は研究者、教員、公務員、学生・院生などであり、社会の広範な分野の者が参画している。共催講座と関連講座の合計では、第II期の後半に名古屋市立大学の学び直し講座の定常化に伴い医療・保健が減少する一方でその他の職業の割合は増加し、講座は多様な職業分野から関心を得ている。

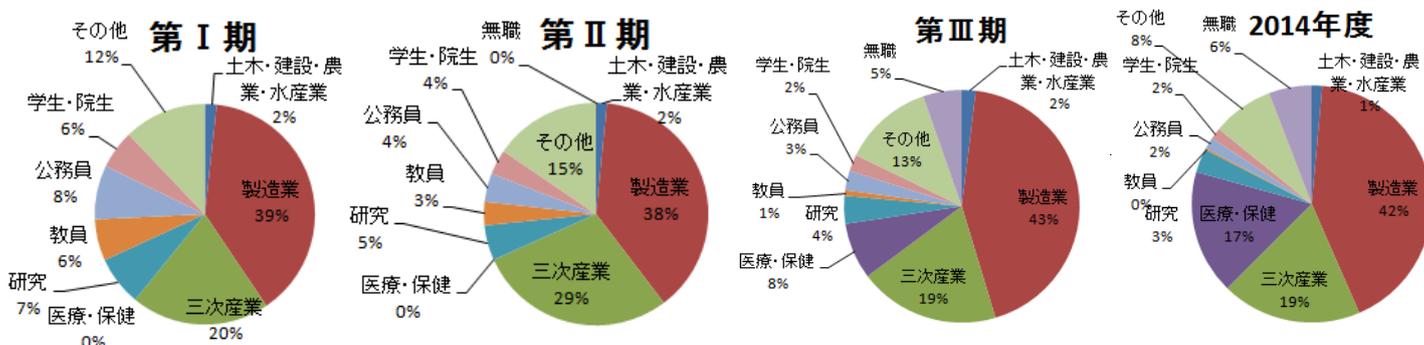


図10-1 職業別応募者（共催講座）（第I期、第II期、第III期、2014年度）

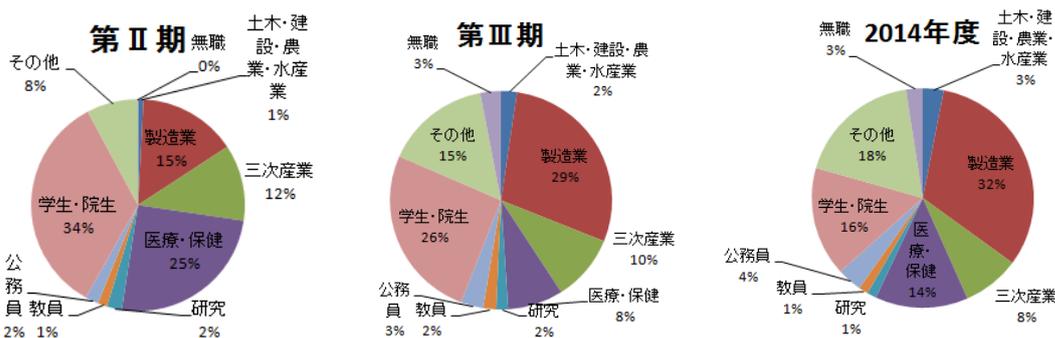


図10-2 職業別応募者（共催・関連講座）（第II期、第III期、2014年度）

4) 男女別分布

第III期の共催講座の男女比は、男性が約75%、女性が約25%であり、第I期、第II期と比較して男性の比率がやや増加する傾向にある。年齢構成で現役世代が約8割を占めていることとともに男性の比率が圧倒的に大きいことに知の市場に対する社会の評価が端的に表れており、社会に多数存在するいわゆるカルチャーセンターとは全く異なる存在として社会から認知されている。

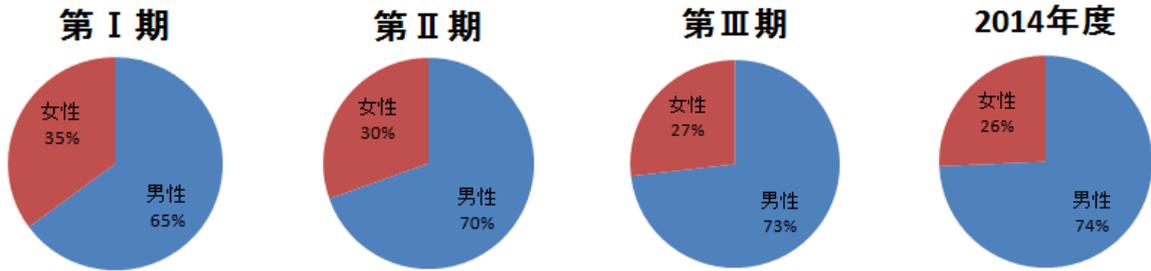


図 11 男女別応募者（共催講座）（第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2014年度）

5) 受講回数分布

共催講座の応募者が過去に何回受講したことがあるかについては、第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較して第Ⅲ期はそれまで受講したことの無い新規の応募者の割合が増加している。新規の開講拠点が全国で増えたことなどが新規の受講者の増加につながっており、知の市場は新たな広がりを増している。一方、2014年度は過去に受講したことがある応募者の割合が増加している。

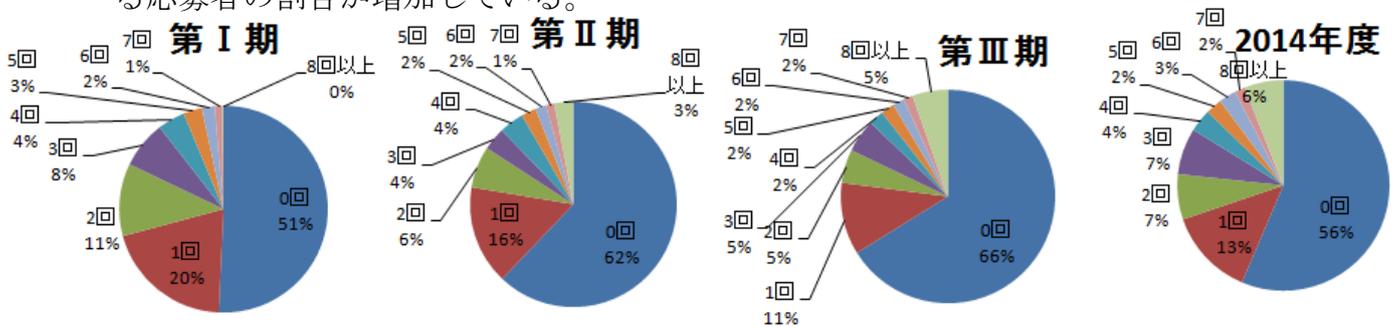


図 12 応募者の過去の受講回数（共催講座）（第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2014年度）

6) 情報源分布

第Ⅲ期の共催講座の応募者が講座を知った情報源については、第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較してホームページの占める割合が減少する一方で上司或いは教育部門の指示が増加しており、企業や公共団体など諸々の機関において知の市場は高く評価され、実質的に研修コースとして位置づけられている。

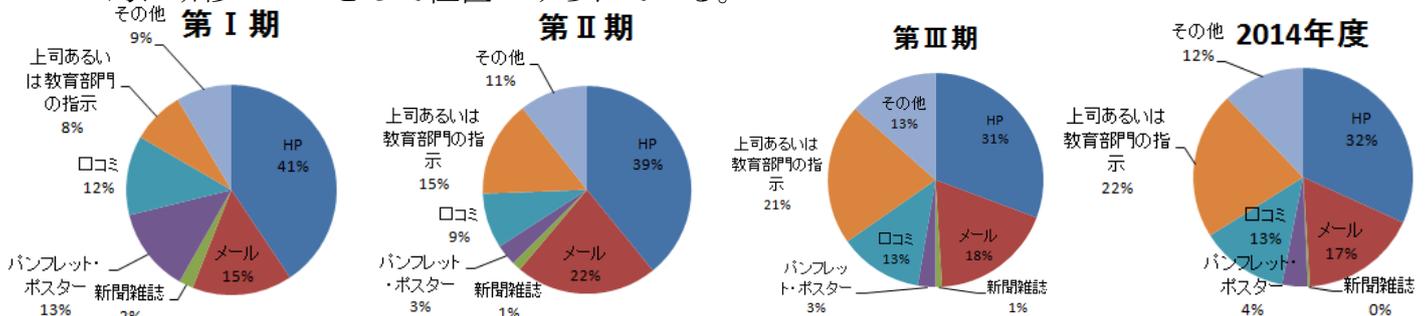


図 13 講座を知った情報源（共催講座）（第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2014年度）

4. 点検評価

(1) 自己点検評価

49 機関の開講機関及び連携機関で協議会を構成し、108名の構成員が運営主体として知の市場の運営の全般について相互に点検し評価している。

表5 知の市場協議会構成員の所属内訳及び人数

所属分類	機関数	比率	人数	比率
専門機関・研究機関	9	20%	21	19%
公共団体	3	7%	5	5%
産業界・業界団体	9	20%	18	17%
大学・学会	14	31%	19	18%
消費者団体・非営利団体他	5	11%	8	7%
市民（個人）	5	11%	37	34%
合計	45	100%	108	100%

(2015年12月3日現在)

自己点検評価の一環として、開講科目を客観的に評価して科目の改善や講座運営の合理化などに活用するため科目の終了時点で、講師に対して受講者の態度、意欲、コミュニケーション、理解度、満足度の5項目及び講座運営の全般などに関する7項目の合計12項目のアンケート調査を実施する。

また、講師の自己点検と授業の改善に活用するため15回の講義毎に毎回、受講者に対して授業の満足度、理解度、講義レベル、講師の話し方、教材の5項目についてアンケート調査を実施する。さらに、開講科目を客観的に評価して科目の改善や講座運営の合理化などに活用するため科目の終了時点で、受講者に対して受講するに至った背景や動機、満足度や理解度、授業の内容や科目の構成など25項目についてアンケート調査を実施する。

いずれの調査結果においても、過去の傾向から大きな変化はなく、知の市場は引き続き高い評価を得ている。

1) 講師による評価

講師は受講者の受講態度の良さや受講意欲の高さを評価している。また、受講者との意見交換が十分にできるなど講師自身にとっても良い経験の機会になっていると高く評価している。さらに、講義を行うことは知識の整理になり講師にとっても貴重な自己研鑽の機会であるとの評価が定着しており、企業や専門・研究機関が連携機関として科目を開講することにより自らの組織の人材育成に活かそうとする動きにつながっている。

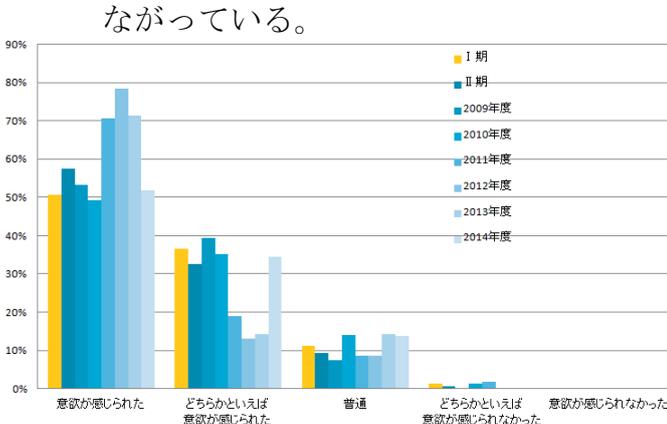


図14 講師による受講者の受講意欲の評価 (共催講座)

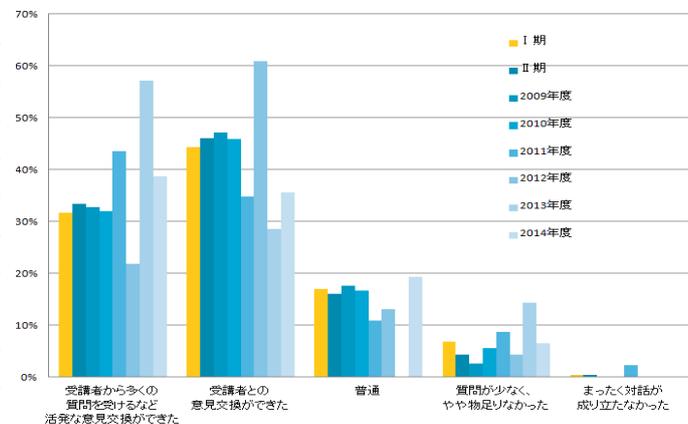


図15 講師による受講者とのコミュニケーションの評価 (共催講座)

2) 受講者による評価

受講者は講義に対して高い満足度を示し、講義に対する理解度も高い。100%近い受講者が次回も受講したい或いは他人にも講座を紹介したいと答えており、知の市場は社会から高い評価を受けている。また、受講者の大多数が職業に係る知識の修得において役立つのみならず自らの教養を高めたり学習の充実感を得る上で有益であると評価しており、現代社会と世界動向を理解するための教養を醸成するという知の市場の目的は社会で広く受け入れられている。

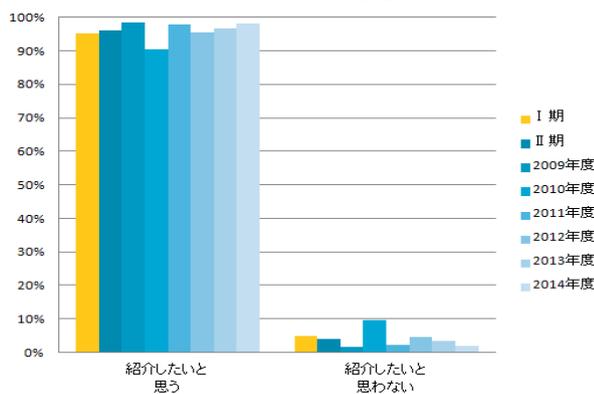


図 16 受講者の他人へ紹介 (共催講座)

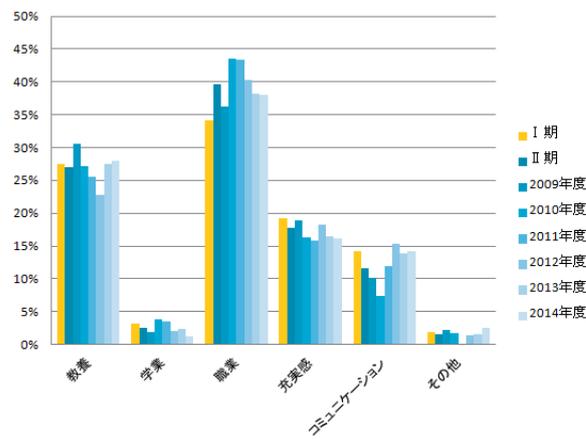


図 17 受講が役立った点 (共催講座)

(2) 評価委員会による外部評価

外部有職者などによって構成する評価委員会を設置し、自己点検評価の結果を検証し、講座の運営、科目の構成などについて不断に評価し改善に努めている。2015年度は2014年度と比べて5名増加し65名により評価委員会を構成する。2015年度知の市場評価委員会構成員を別表に示す。

表 6 知の市場評価委員会構成員の所属内訳及び人数

所属分類	人数	比率
専門機関・研究機関	6	9%
公共団体	3	5%
産業界・業界団体	15	23%
大学・学会	16	25%
消費者団体・非営利団体他	3	5%
報道機関	4	6%
市民(個人)	18	28%
合計	65	100%

(2015年12月3日現在)

(3) 年次大会の開催

2009年度以降、社会の現場を担う者が自己研鑽に励みつつ人材育成や教育に参画している姿を社会に広く提示すること、社会の多彩な意見を吸収する機会を確保し幅

広い人々の検証を受けること、密接なコミュニケーションにより認識の共有化を図る場を提供することなどを通して知の市場の発展に資することを目的として、知の市場の運営に携わる関係者が当該年度の活動の実績や次年度の計画などを広く社会に対して報告し公開する年次大会を開催している。

これまで延べ 433 名の参画のもと、文部科学省文部科学審議官 板東久美子氏、放送大学理事長・日本オープンオンライン教育推進協議会理事長（前早稲田大学総長）白井克彦氏、文部科学省大臣官房国際課国際戦略企画室長 井上睦子氏、国立感染症研究所所長 渡邊治雄氏の 4 名の特別講演や 12 個人と 8 機関の奨励賞受賞記念講演を行うとともに延べ 91 機関が開講の実績や計画などについて報告を行った。2015 年度もこれまでの実績を踏まえて今後の課題を論じるため引き続き第 7 回年次大会を開催する。

（４）奨励賞の授与

知の市場における自己研鑽とその成果を活用する活動及び人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に資する活動を奨励することを目的として、2010 年度から奨励賞を授与している。自薦・他薦及び開講や受講の実績調査などに基づき知の市場協議会における審議と知の市場評価委員会における確認を経て選考する。

これまで、知の市場で受講し自己研鑽に励みかつその成果を社会に活用した者として河端茂氏の 1 名、開講機関や連携機関として人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に係る活動に参画した機関として国立感染症研究所、化学工学会 SCE・Net、主婦連合会、農業生物資源研究所、日本獣医師会、製品評価技術基盤機構、名古屋市立大学の 7 機関、講師として人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に係る活動に参画した者として上路雅子氏、永山敏廣氏、尾崎圭介氏、保利一氏、星川欣孝氏、服部道夫氏、津田洋幸氏、山崎徹氏、長田敏氏、堀中新一氏、武田繁夫氏の 11 名、受講者を多く輩出し人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に貢献した機関としてお茶の水女子大学の 1 機関に奨励賞を授与した。2015 年度は、講師として人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に係る活動をした者として 4 名、開講機関や連携機関として人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に係る活動に参画した機関として 2 機関に奨励賞を授与する。これによって奨励賞の授賞者は 16 個人と 9 機関の合計 25 件に達する。

表 7 奨励賞授与の実績

年度	受講者		講師	参画・協力機関	
	個人	機関		開講／連携機関	連携機関のみ
2010	1	—	0	3	0
2011	0	—	3	2	1
2012	0	—	5	1	0
2013	0	1	2	0	0
2014	0	0	1	0	0
2015 (予定)	0	0	4	2	0

(2015 年 12 月 3 日現在)

5. 今後の課題

「知の市場」は今後も恒常的に教育内容の向上に努める。また、連携機関の拡充を図って開講分野を拡大し、現代社会と世界動向を理解するために必要なより広範で総合的な自己研鑽の機会を提供する。さらに開講機関の拡充を図って開講拠点の全国展開をさらに進め、自己研鑽の機会の日常化と普遍化を推進していく。

また、第Ⅰ期～第Ⅲ期の実績を踏まえつつ、社会を構成する多彩な者が自主的に参画する活動として「知の市場」がさらに自立的にして自律的に発展していくための基盤を確立することを目指す。そのため、活動の簡素化と合理化を一層推進するとともに、知の市場の活動の透明性をさらに高めつつ双方向のコミュニケーションを強化して認識の共有化を促進し連携と共働を強化する。

【知の市場評価委員会構成員一覧】

委員名（敬称略）	所属	肩書
相澤益男	科学技術振興機構	顧問（東京工業大学元学長・元総合科学技術会議議員）
阿尻雅文	東北大学 未来科学技術共同研究センター	教授
阿南忠明		
阿部博之	科学技術振興機構	顧問（東北大学元総長・元総合科学技術会議議員）
磯知香子		
井上睦子	文部科学省	大臣官房国際課国際戦略企画室長
今給黎佳菜		
内ヶ崎功	日立化成	元社長・元会長
及川信一		
大川秀郎	中国農業科学院油糧作物研究所	特聘教授（神戸大学名誉教授）
大川原正明	大川原化工機	社長
大久保明子	住友ベークライト	S-バイオ事業部 マーケティング・営業部長
梶山千里	福岡女子大学	理事長兼学長（元九州大学総長）
数瀬明美	日本リスクマネージャネットワーク	
神園麻子		
軽部征夫	東京工科大学	学長（東京大学名誉教授）
河端茂	YKK AP	商品品質管理部
神田尚俊	東京農工大学	名誉教授
菊田安至	福山大学 社会連携研究推進センター	教授
岸輝雄	物質・材料研究機構	顧問
岸田春美		
岸田文雄		
倉内憲孝	住友電工	名誉顧問
栗原脩		
桑原洋	日立製作所	元副会長
倉田毅	国際医療福祉大学	教授（元国立感染症研究所長）
小出重幸	元読売新聞	元読売新聞編集委員
小宮山宏	三菱総合研究所	理事長（前東京大学総長）
佐野真理子	主婦連合会	
白井克彦	放送大学学園	理事長（前早稲田大学総長）
白井淳資	東京農工大学農学部獣医学科	教授
高橋俊彦	J S R	環境安全部
田部井豊	農業生物資源研究所	遺伝子組換え研究推進室長
辻篤子	朝日新聞社	論説委員
津田喬子	名古屋市立東部医療センター東市民病院	名誉院長
常盤豊	文部科学省	大臣官房審議官
中島幹	綜研化学	会長
永田裕子	みずほ情報総研	コンサルティング業務部次長
長野庵士	西村あさひ法律事務所	弁護士
中村幸一		
中村雅美		
西野仁雄	名古屋市立大学	前学長
野中哲昌	ダイセル	生産技術本部 生産センター所長
橋都なほみ	じほう	編集主幹
馬場政二	放送大学	
板東久美子	消費者庁	長官
樋口敬一		
日和佐信子	雪印メグミルク	社外取締役（元消費者団体連絡会事務局長）
福永忠恒		
細田覚	住友化学	
保利一	産業医科大学	産業保健学部長
前田浩平	三洋化成工業	執行役員
増田和子	増田襄和堂	表具師
三浦千明		
溝口忠一		
向殿政男	明治大学	校友会長、名誉教授
村田康博	YKK	
守谷恒夫	住友ベークライト	元社長・元会長
保田浩志	国連科学委員会事務局	プロジェクトマネージャー
山崎徹	化学工学会SCE・Net	
山下俊一	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	教授
山本佳世子	日刊工業新聞社	論説委員兼編集委員
結城命夫		
吉田淑則	JSR	元社長・前会長
渡辺治雄	国立感染症研究所	前所長

2015年12月3日現在 合計65名

注：評価委員は個人の資格で評価委員会に参画し、個人としての見識に基づいて意見を述べる。

【体系と機能】

Free Market of・by・for Wisdom

Voluntary Open Network Multiversity

知の市場

「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として
 実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して
 人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自律的に集う場

		友の会	連携学会	協力者・協力機関	有志学生実行委員会	知の市場事務局	協議会	評価委員会	
共 催 講 座		東京・放送大学文京学習センター	東京知の市場、放送大学(協賛)	放送大学文京学習センター(東京メトロ茗荷谷駅)	前期2科目、後期1科目、計3科目開講				
		埼玉・狭山	狭山商工会議所、狭山市	狭山市産業労働センター(西武新宿線狭山市駅前)	前期1科目、後期2科目、計3科目開講				
		大阪・千里山	日本リスクマネジネットワーク	関西大学千里山キャンパス(阪急千里線関大前駅)	後期2科目、計2科目開講				
		鳥取・倉吉	動物臨床医学研究所	動物臨床医学研究所又は伯耆しあわせの郷(JR倉吉駅)	前期1科目、後期1科目、計2科目開講				
		東京・戸山	国立感染症研究所	国立感染症研究所(東京メトロ早稲田駅、若松河田駅)	前期1科目、後期1科目、計2科目開講				
		東京・同志社大学東京オフィス	東洋システム	同志社大学東京オフィス(JR東京駅、東京メトロ京橋駅)	前期1科目				
		東京・お茶の水女子大学	お茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター	お茶の水女子大学(東京メトロ茗荷谷駅、護国寺駅)	前期1科目、後期2科目、計3科目開講				
関 連 講 座	I 教 養 編	東京・放送大学文京学習センター	東京知の市場、放送大学(協賛)	放送大学文京学習センター(東京メトロ茗荷谷駅)	前期2科目、後期2科目、計4科目開講				
		愛知・名古屋市立大学(1)最新医学	名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ	名古屋市立大学川澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅)	3期制、計3ユニット開講				
		東京・幡ヶ谷	製品評価技術基盤機構	製品評価技術基盤機構(京王新線幡ヶ谷駅)	前期2科目、計2科目開講				
		東京・筑波大学東京キャンパス	筑波大学	筑波大学東京キャンパス文京校舎(東京メトロ茗荷谷駅)	前期1科目、後期1科目、計2科目開講				
		東京・茗荷谷	化学工学会SCE・Net	お茶の水女子大学(東京メトロ茗荷谷駅、護国寺駅)	前期1科目、計1科目開講				
		大阪・住之江	製品評価技術基盤機構、関西大学社会安全学部、関西消費者連合会	製品評価技術基盤機構製品安全センター	前期1科目、計1科目開講				
		東京・西早稲田(2)製評機構	製品評価技術基盤機構、早稲田大学規範科学総合研究所	早稲田大学西早稲田キャンパス(東京メトロ西早稲田駅前)	後期1科目、計1科目開講				
		東京・関西大学東京センター	関西大学社会安全学部	関西大学東京センター(JR東京駅、東京メトロ大手町駅)	前期1科目、計1科目開講				
		東京・浅草	日本中央競馬会	浅草パークホール(つくばエクスプレス浅草駅)	後期1ユニット、計1ユニット開講				
		東京・大東文化大学板橋キャンパス	生協総合研究所、大東文化大学	大東文化大学板橋キャンパス(東武東上線東武池袋駅、都営三田線西台駅)	前期1科目、計1科目開講				
		茨城・つくば	農業・食品産業技術総合研究機構	つくばサイエンス・イノベーションセンター(つくばエクスプレスつくば駅)	後期1ユニット、計1ユニット開講				
		東京・神田神保町	六大学狂言研究会連絡協議会	共立女子大学共立講堂(東京メトロ神保町駅、竹橋駅、九段下駅)	前期1ユニット、計1ユニット開講				
		東京・お茶の水女子大学	お茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター	お茶の水女子大学(東京メトロ茗荷谷駅、護国寺駅)	前期2科目、計2科目開講				
		II 専 門 編	愛知・名古屋市立大学(2)学びなおし	名古屋市立大学学びなおし支援センター	名古屋市立大学川澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅)	2期制:各期3科目、計6科目開講			
		東京・明治大学	明治大学リパティアカデミー	明治大学駿河台校舎リパティアタワー(JR御茶ノ水駅)	前期1科目、後期1科目、計2科目開講				
		III 研 修 編	埼玉・狭山元気プラザ	アダムジャパン、狭山商工会議所、狭山市	狭山元気プラザ、アダムジャパン(西武新宿線狭山市駅から徒歩バス)	後期1科目、計1科目開講			
福島・いわき	東洋システム		東洋システム(JR湯本駅)	通年1科目、計1科目開講					
IV 大 学 ・ 大 学 院 編	東京・放送大学文京学習センター	放送大学		4科目開講					
	東京・早稲田大学理工学部	早稲田大学先進理工学部		3ユニット開講					
	東京・早稲田大学共同先進健康科学専攻	早稲田大学先進理工学研究科共同先進健康科学専攻		1科目開講					
	東京・筑波大学	筑波大学		2科目開講					
	東京・大東文化大学	大東文化大学		1科目開講					

2016年度 前期

公開講座「知の市場」の機関別開講科目一覧

■ 共催講座

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
東京・放送大学文京学習センター 知の市場 開講機関：東京知の市場/放送大学（協賛） 会場：放送大学東京文京学習センター（地下鉄茗荷谷駅）					
UT114b	化学物質リスク評価2	花井リスク研究所	必要な情報やデータをどう入手し活用するかを基礎から学ぶ	火集中	14:10-17:15
UT812	プロフェッショナル論	放送大学	楽しく豊かな人生を創造するプロフェッショナルの心得	金集中	14:00-18:00
埼玉・狭山 知の市場 開講機関：狭山商工会議所/狭山市 会場：狭山市産業労働センター（西武新宿線狭山市駅前）					
YB611b	狭山を学ぶ 企業編b	狭山商工会議所/狭山市	狭山を彩るものづくり企業シリーズb - 狭山工業団地エリア編 -	木	18:30~20:30
鳥取・倉吉 知の市場 開講機関：動物臨床医学研究所 会場：動物臨床医学研究所又は伯耆しあわせの郷（JR倉吉駅）					
ZY222m	動物臨床医学事例研究m	動物臨床医学研究所	臨床現場に有用な症例検討のあり方1	日	9:30-16:50
東京・戸山 知の市場 開講機関：国立感染症研究所 会場：国立感染症研究所（地下鉄早稲田駅・若松河田駅）					
PT211c	感染症総合管理1c	国立感染症研究所	感染症との闘い-現在問題となっている感染症-	火	18:30-20:30
愛知・同志社大学東京オフィス 知の市場 開講機関：東洋システム 会場：同志社大学東京オフィス（地下鉄京橋駅・銀座一丁目駅、JR東京駅）					
BT515	社会技術革新事例研究1	社会技術革新学会	リチウムイオン二次電池開発の歴史に見る技術革新の成否の要因	金	18:00-19:30
東京・お茶の水女子大学 知の市場 開講機関：お茶の水女子大学 会場：お茶の水女子大学（地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅）					
CT543	サステナブル消費論	新 サステナビリティ消費者会議	今後の持続可能な社会で消費者はどのようにあるべきかを考える	土	13:00~17:10

■ 関連講座

(大学・大学院編を除く)

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
愛知・名古屋市立大学（1）最新医学 開講機関：名古屋市立大学健康科学講座オープンカレッジ 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス（地下鉄桜山駅前）					
41	第1期講座・第2期講座	名古屋市立大学大学院医学研究科		金	18:30-20:00
東京・茗荷谷 知の市場 開講機関：化学工学会SCE・Net 会場：お茶の水女子大学（地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅）					
VT465b	原子力・放射能基礎論b	化学工学会SCE・Net	原子力と放射能の今を考える	土集中	13:00-17:10
東京・幡ヶ谷 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構 会場：製品評価技術基盤機構（京王新線幡ヶ谷駅）					
SE125	化学物質総合管理特論（仮）	製品評価技術基盤機構	化学物質に関するリスク評価とリスク管理の基礎知識（仮）		
SE232	バイオ安全特論（仮）	製品評価技術基盤機構	微生物資源の活用とバイオ安全の基礎知識（仮）		
大阪・住之江 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構/関西大学社会安全学部/関西消費者連合会 会場：製品評価技術基盤機構製品安全センター					
SK441	製品総合管理特論（仮）	製品評価技術基盤機構	製品安全対策の基礎知識（仮）		
東京・関西大学東京センター 知の市場 開講機関：関西大学 会場：関西大学東京センター（JR東京駅・地下鉄大手町駅）					
LE472c	社会安全学c	関西大学	東日本大震災 復旧・復興5年の検証	木	18:00-20:00
東京・大東文化大学板橋キャンパス 知の市場 開講機関：生協総合研究所/大東文化大学 会場：大東文化大学板橋キャンパス（東武東上線東武練馬駅）					
KT542b	生協社会論b	生協総合研究所/大東文化大学	新しい社会の実現を目指して	水	15:00-16:30
東京・放送大学文京学習センター 開講機関：東京知の市場/放送大学（協賛） 会場：放送大学東京文京学習センター（地下鉄茗荷谷駅）					
UT434	農業論1	新 日本植物防疫協会	食料の安定的かつ持続的な生産と高品質化を目指す農業のリスク管理と管理の実際	木集中	14:10-17:15
UT139	化学物質総合管理論1	新 ケミカルリスク研究所	鎖国状態から脱出し、官主導の旧弊から脱却して民主体の管理を実現する	水	15:00-17:00
東京・お茶の水女子大学 開講機関：お茶の水女子大学ライフワールドウォッチセンター 会場：お茶の水女子大学（地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅）					
CT573	現代環境法入門	第二東京弁護士会環境法研究会	環境法制の生成・発展と公害・環境訴訟から環境法制のあり方を考える	木	18:30-20:30
CT527	プラスチック・ゴム概論	新 お茶の水女子大学ライフワールドウォッチセンター	社会で活用されているプラスチック、ゴムの基礎から応用までを理解する	水	18:30-20:30
愛知・名古屋市立大学（2）学びなおし 知の市場 開講機関：名古屋市立大学学びなおし支援センター 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス（地下鉄桜山駅前）					
4-101~103	春季講座	名古屋市立大学学びなおし支援センター		火-木	18:30-20:00
東京・明治大学 知の市場 開講機関：明治大学リバティアカデミー 会場：明治大学リバティアワー（JR・地下鉄御茶ノ水駅）					
IT443a	安全学入門	明治大学リバティアカデミー	安全を総合的に、包括的に考える	土集中	13:00-16:10
福島・いわき 知の市場 開講機関：東洋システム 会場：東洋システム（JR湯本駅）					
BF134	化学物質総合経営学基礎論	化学生物総合経営研究所	健康・環境リスクを巡る国際的な論議を踏まえながら化学物質管理を付加価値の創造に繋げる道を探る	水通期	15:30-17:30
東京・神田神保町 知の市場 開講機関：六大学狂言研究会連絡協議会 会場：東洋システム（JR湯本駅）					
ET912	狂言論	六大学狂言研究会連絡協議会		集中	6月26日

2016年度 後期

公開講座「知の市場」の機関別開講科目一覧

■ 共催講座

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
東京・放送大学文京学習センター 知の市場 開講機関：東京知の市場/放送大学（協賛） 会場：放送大学東京文京学習センター（地下鉄茗荷谷駅）					
UT115b	化学物質リスク評価（演習）2	花井リスク研究所	作業者暴露推算モデルを中心に	火集中	14:10-17:15
東京・お茶の水女子大学 知の市場 開講機関：お茶の水女子大学ライフワールドウォッチセンター 会場：お茶の水女子大学（地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅）					
CT574a	法学入門a	お茶の水女子大学ライフワールドウォッチセンター	実践的考察を通じたリガルマインドの涵養	水	18:30-20:30
CT234	生物総合評価管理学	新 農業・食品産業技術総合研究機構	農作物の品種改良が世界を救う	金	18:30-20:30
埼玉・狭山 知の市場 開講機関：狭山商工会議所/狭山市 会場：狭山市産業労働センター（西武新宿線狭山市駅前）					
YB612b	狭山を学ぶ ものづくり編b	狭山商工会議所/狭山市/狭山市茶業協会	グローバルブランドを目指す狭山茶の全てを学ぶ	火土	18:30-20:30 13:30-16:30
YB614a	狭山を学ぶ 教育編a	狭山商工会議所/狭山市	中学生における経済キャリア教育1（対象：狭山市内中学生・公募）	土集中	13:00-17:00
大阪・千里山 知の市場 開講機関：日本リスクマネージャネットワーク、後援：関西大学化学生命工学部、日本家庭用殺虫剤工業会 会場：関西大学千里山キャンパス（阪急電鉄関大前駅）					
JK131b	防疫薬総合管理	日本環境動物昆虫学会	身近な生活・環境害虫防除ー世界をリードする防疫薬と害虫防除技術ー	月	18:15-20:15
大阪・千里山 知の市場 開講機関：日本リスクマネージャネットワーク、後援：関西大学化学生命工学部 会場：関西大学千里山キャンパス（阪急電鉄関大前駅）					
JK454	環境基礎論	日本リスクマネージャネットワーク	市民の環境問題入門	火	18:15-20:15
鳥取・倉吉 知の市場 開講機関：動物臨床医学研究所 会場：伯耆しあわせの郷又は動物臨床医学研究所（JR倉吉駅）					
ZY222n	動物臨床医学事例研究n	動物臨床医学研究所	臨床現場に有用な症例検討のあり方2	日集中	10:00-16:10
東京・戸山 知の市場 開講機関：国立感染症研究所 会場：国立感染症研究所（地下鉄早稲田駅・若松河田駅）					
PT211d	感染症総合管理 1 d	国立感染症研究所	感染症対策ーワクチンを中心にー	火	18:30-20:30
■ 関連講座 (大学・大学院編を除く)					
No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
愛知・名古屋市立大学（1）健康 知の市場 開講機関：名古屋市立大学健康科学講座オープンカレッジ 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス（地下鉄桜山駅前）					
41	第3期講座	名古屋市立大学大学院医学研究科		金	18:30-20:00
東京・筑波大学東京キャンパス 知の市場 開講機関：筑波大学 会場：筑波大学東京キャンパス（地下鉄茗荷谷駅）					
306	リスクコミュニケーション入門	筑波大学/日本サイエンスコミュニケーション協会		月	18:30-20:30
東京・西早稲田（2）製評価機構 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構/早稲田大学規範科学総合研究所 会場：早稲田大学西早稲田キャンパス（地下鉄西早稲田駅前）					
ST441	製品総合管理特論（仮）	製品評価技術基盤機構	製品安全対策の基礎知識（仮）		
東京・浅草 知の市場 開講機関：日本中央競馬会 会場：東京・浅草パークホール（つくばエクスプレス浅草駅）					
HT921	実践競走馬学	日本中央競馬会	馬はどのような生き物か、競馬とサラブレッドの魅力を語る	木	18:15-20:15
茨城・つくば 知の市場 開講機関：農業・食品産業技術総合研究機構 会場：つくばサイエンス・インフォメーションセンター（つくばエクスプレスつくば駅）					
AI233	農業生物資源論1	農業・食品産業技術総合研究機構	バイオテクノロジーで拓く食料、医療などへの農業生物資源の利用と未来	水	18:00-19:30
愛知・名古屋市立大学（2）学びなおし 知の市場 開講機関：名古屋市立大学学びなおし支援センター 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス（地下鉄桜山駅前）					
14-201~203	秋季講座	名古屋市立大学学びなおし支援センター		火-木	
東京・明治大学 知の市場 開講機関：明治大学リバティアカデミー 会場：明治大学リバティアタワー（JR・地下鉄御茶ノ水駅）					
IT443b	製品機械安全特論	明治大学リバティアカデミー	製品と機械のリスクアセスメントについて考える	土集中	13:00-16:10
東京・放送大学文京学習センター 知の市場 開講機関：東京知の市場/放送大学（協賛） 会場：放送大学東京文京学習センター（地下鉄茗荷谷駅）					
UT575	リスク法学入門	新 水野泰孝会計法律事務所	現代社会が直面するリスクに対応するために法律はいかなる役割を担うことができるか	水集中	14:10-17:15
UT116a	実践化学物質総合管理（演習）2	新 林浩次	SDS作成とGHS分類の実務を学ぶ	水集中	14:10-17:15
埼玉・狭山元気プラザ 知の市場 開講機関：アダムジャパン/狭山商工会議所/狭山市 会場：狭山元気プラザ又はアダムジャパン（西武新宿線狭山市駅からバス）					
YB612a	狭山を学ぶ ものづくり編a	アダムジャパン/狭山商工会議所/狭山市（元気大学）	世界に羽ばたくピリヤードのすべて	水田	16:30-18:30 14:00-16:00
福島・いわき 知の市場 開講機関：東洋システム 会場：東洋システム（JR湯本駅）					
BF138	化学物質総合経営学基礎論	化学生物総合経営研究所	健康・環境リスクを巡る国際的な論議を踏まえながら化学物質管理を付加価値の創造に繋げる道を探る	水通期	15:30-17:30